

# 長岡宮造営時に壊された二つの古墳

古墳1 (西から)

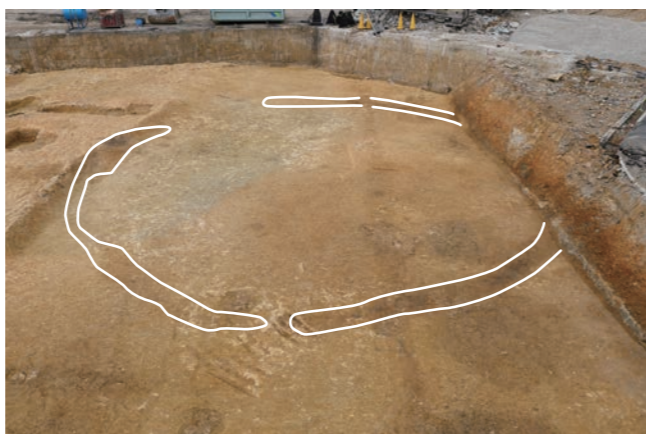


C・D地区で検出した直径約13mの円墳で、墳丘は削平されて、古墳の周りに掘られた周溝のみを検出しました。周溝内からは、古墳時代中期の土器がまとまった状態で出土しました。

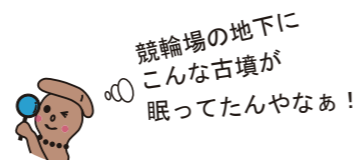


古墳1から出土した土器 (北東から)

古墳2 (南から)



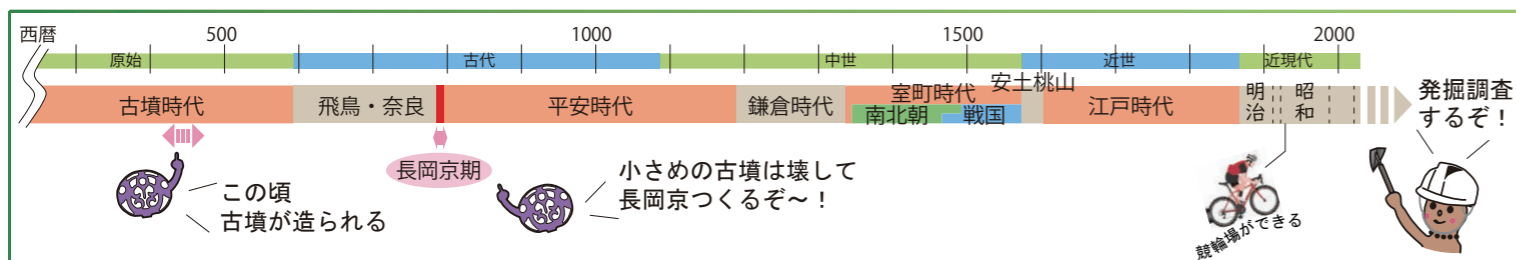
古墳1の東側で検出した、直径約13mの円墳で、古墳1と同様に周溝のみを検出しました。周溝の上から長岡京期の南北溝(溝3)が検出されているため、長岡京期に古墳2が壊されたことが明らかとなり、古墳1も同様の時期に壊されたと考えられます。



## ながおかきょうあと 長岡京跡 (宮第545・549次調査)



調査場所 向日市寺戸町西ノ段 (向日町競輪場内)  
調査期間 令和6年5月17日～令和8年2月27日 (予定)  
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



### まとめ

今回の調査では、長岡京期の掘立柱建物や柱列・溝などの遺構を確認しました。長岡宮内では、この地は西方官衙があったと推定されています。今回の調査地区の西側では廂付き掘立柱建物や柱列など、東側では区画施設を隔てて大型の掘立柱建物の可能性がある建物跡が見つかり、長岡京期に丘陵のすぐ近くまで開発が及んでいたことが明らかになりました。

また、今回の調査で2基の古墳が発見され、長岡京が造営される際に壊されていたことがわかりました。宮と言う長岡京内において重要施設の建設のため、古墳を壊すような大規模な造成が行われていたことがわかりました。壊された古墳は、大極殿院付近の山畑古墳群などを中心にこれまで10数基ほど確認されています。

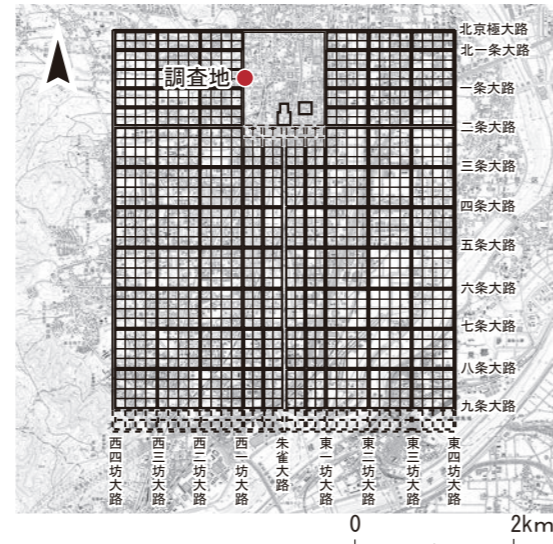


大型の建物4と溝3(北から)

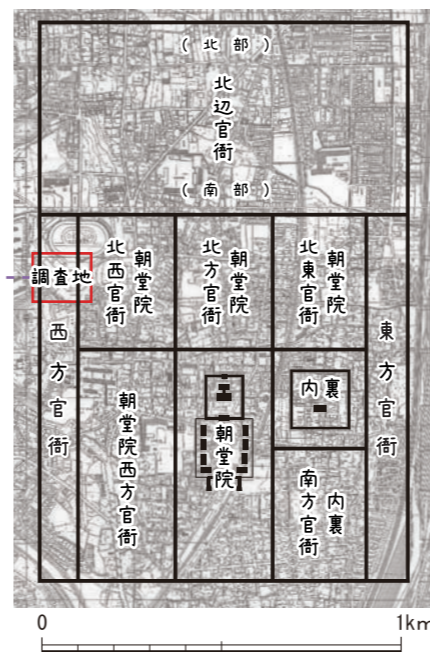
## はじめに

今回の発掘調査は、京都府向日町競輪場の再整備工事に先立って、令和6年度から実施しているものです。

調査地は、長岡宮の西端に位置し、西方官衙が推定される地域です。昭和60年度に行われた近接地での調査（宮第164次）では、長岡京期の建物や溝跡などが確認されています。



第1図 条坊位置図(S=1/100,000)



第2図 長岡宮官衙配置割付図 (向日市教育委員会 1982)

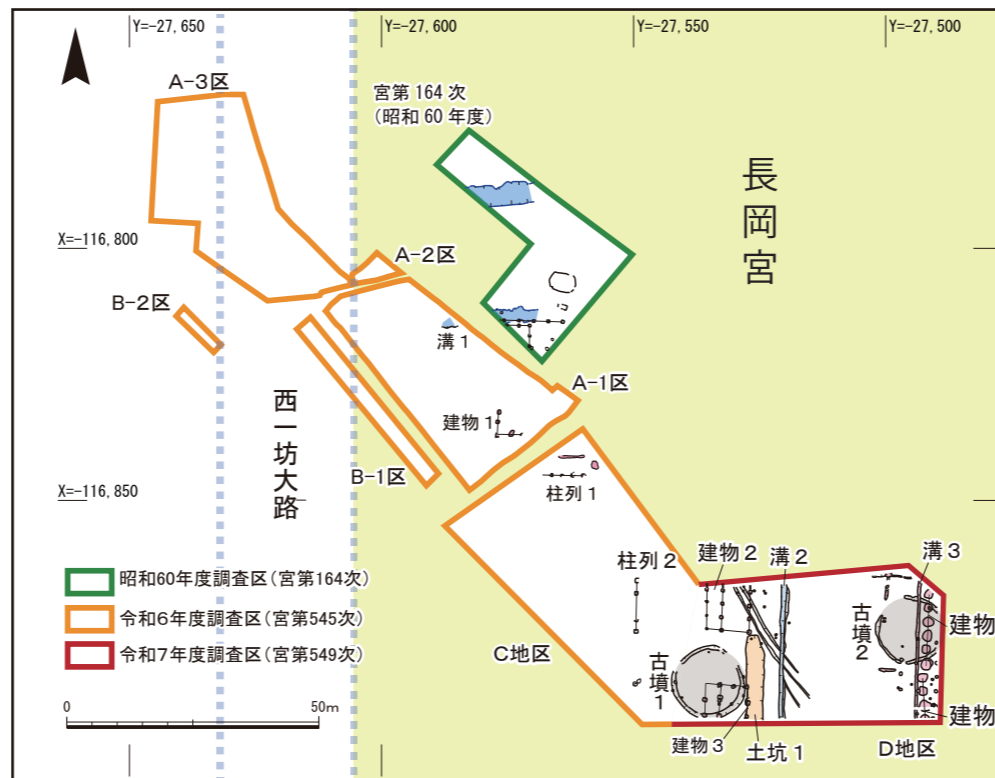
## 長岡宮の西端は・・・

今回の調査では、A-1区で昭和60年度に確認されていた溝の延長部分（溝1）のほか、新たに掘立柱建物、柱列、南北方向の溝などを検出しました。

D地区で検出した土坑1は、炭とともに多くの長岡京期の土器や瓦が捨てられていました。土坑1が埋没した後に建物3が建てられました。建物2・3は西側に廂を付けた南北棟の建物で柱筋が揃っていることから、同時期に建てられた掘立柱建物と考えられます。

溝2は幅0.7m、深さ1mを超える深いもので、断面がほぼ垂直に立ち上がり、水が流れた痕跡がないことから、宮内の西方官衙内を区画する施設であった可能性があります。

調査区の東端で検出したため、全容はわかりません

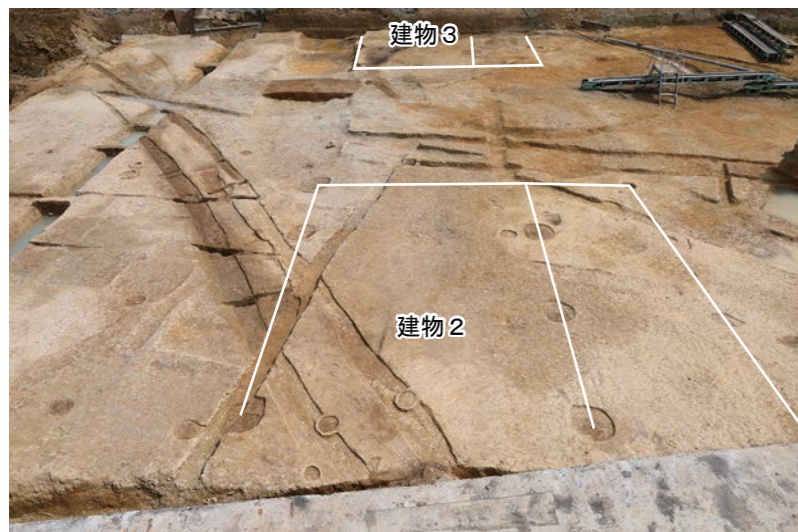


第3図 古墳時代・長岡京期の主な遺構平面図(S=1/1500)

が、建物の西辺部分であれば、柱の並びから5間以上の建物4（柱間2.7m）と3間以上の建物5（柱間2.7～3m）があったと推定できます。

溝3からは多くの瓦が出土しており、溝3の東で確認した建物4・5の雨落ち溝の可能性あります。

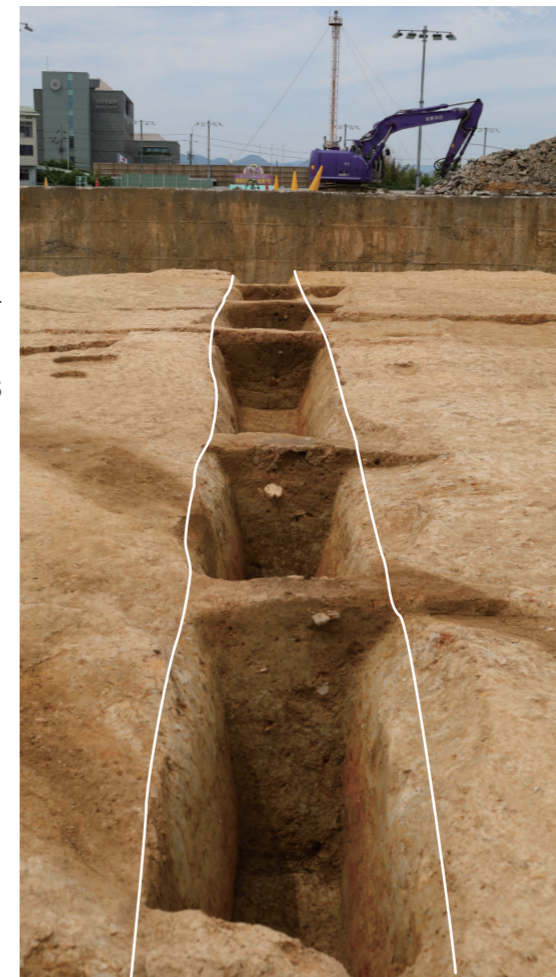
今回の調査では、長岡宮の西方官衙が推定されている場所で、南北に長い建物が軸をそろえて建てられているなど、長岡宮の西端における土地利用の一端がわかってきました。



土坑1の埋没後に建てられた建物2と建物3検出状況(北から)



溝2の遺物出土状況  
(上/須恵器壺 西から 下/軒平瓦 北西から 右/軒丸瓦 南から)



長岡京期の溝2 (南から)



大型の建物4・5と溝3検出状況 (南から)